

宮崎市立 ライ・ゼ・風 (現場)からの風

608

を感ひながらの農業だ。この夏、世界外環が50度を超えた気温が観測され、ついで、先月22日には中環の平均気温が観測史上最も高くなり、暑さによる死者は年間約10万人と推定されてる。

炎暑級の猛暑が見込まれるなか、田中の外出の機会が減り、心身の活力が低下する「フレイル」にならぬスクが高まる。指摘。

フレイルとは、健康な状態で、心身が老い衰な暑さが相次いでいることを受け、「地球はより暑く、誰にどつても危険な場所になつていい」と書く。誰にどつても危険な場所になつていい」と書く。

「フレイル」のリスクに注意を

行動をお勧めしたい。

100歳の双子姉妹として国民的人気を得た「きんせんぎんさん」(ともに故人)の妹。「蟹江きんさん」は、日々が暑れるままでよく仕事をすれば、腹が減って食事がおじび感、歩行速度の低下、

十にして天命を知る。六十にして耳に順(したが)う。七十にして心の浴(ゆ)の所に従(そ)ども、矩(のり)・道徳をこころ」と述べているが、超高齢化社会の今八代・九代・百代へ孔子は何を教えとす。温暖化が進む状況で今後は穴が空くじゃ

ないかの懸念が、豊田市の気温が最高の1日暮れ、腹くれ、夜長な一を標準に夏生き(た)の言葉を残していく。孔子は論語で「吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして惑わす。六十にして聰明(くわいめい)なるががくも急成長して中心にでんぶんが行き届かず、中心に空洞(くうどう)が起きる現象で『中心空洞病』と言いい、中心部分と空洞の周囲が黒や茶色に変色したところを取り除けば食べることができま

る。雷雨の中でもソバ播種農場の草刈り作業。今後の天候が適期播種に適することを願うばかりだ

